



2024年6月10日

各 位

会社名 カーリットホールディングス株式会社  
(URL : <https://www.carlithd.co.jp>)  
代表者名 代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文  
(コード番号 4275 東証プライム)  
問合せ先 広報・サステナビリティ推進室長 島田 拓  
(TEL : 03-6893-7060)

### 2024年3月期決算説明動画配信のお知らせ

当社の2024年3月期決算説明動画を配信いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

2024年3月期決算説明会を6月3日、機関投資家・証券アナリスト向けにライブ配信にて開催いたしました。フェアディスクロージャーの観点から、同説明会をYouTubeにてオンデマンド配信いたします。

説明内容と発表者は以下のとおりです。

- |                          |                     |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 2024年3月期 決算概要         |                     |
| 2025年3月期 通期見通し           | 財務部担当執行役員 岡本 英夫     |
| 2. 中期経営計画「グローアッププラン2024」 | 代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文  |
| 3. QAセッション               | ・代表取締役兼社長執行役員 金子洋文  |
|                          | ・取締役兼執行役員 経営企画部長    |
|                          | 兼 日本カーリット(株)代表取締役社長 |
|                          | 小川文生                |
|                          | ・財務担当執行役員 岡本英夫      |
|                          | ・総務担当執行役員 引地智則      |

以下のURLよりご視聴のほどお願いいたします。

<https://youtu.be/p2IEraWVG-s>

以 上

**2024年3月期 決算説明**  
**中期経営計画「グローアッププラン2024」**



**カーリットホールディングス株式会社**

**CODE : 4275**

- 2024年3月期 決算概要
- 2025年3月期 通期見通し

財務部担当執行役員 岡本 英夫

- 中期経営計画「グロースアッププラン2024」

代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文

- 質疑

# 2024年3月期 決算概要

---

# 決算概要

## < 連結損益計算書 > 累計

(単位：百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	差異	増減率
<b>売上高</b>	<b>36,008</b>	<b>36,577</b>	<b>+568</b>	<b>+1.6%</b>
売上原価	27,321	27,075	△246	△0.9%
販売費および一般管理費	6,046	6,149	+103	+1.7%
<b>営業利益</b>	<b>2,640</b>	<b>3,352</b>	<b>+711</b>	<b>+27.0%</b>
<b>経常利益</b>	<b>2,910</b>	<b>3,600</b>	<b>+690</b>	<b>+23.7%</b>
<b>純利益</b>	<b>2,246</b>	<b>2,598</b>	<b>+351</b>	<b>+15.7%</b>
<b>期末配当（円/株）</b>	<b>20</b>	<b>33</b>	<b>+13</b>	<b>+65.0%</b>

特別利益 投資有価証券売却益 142  
 特別損失 固定資産除却損 37

	売上高			営業利益		
	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	差異	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	差異
(単位：百万円)						
化学品	20,159	<b>20,422</b>	+262	1,554	<b>1,690</b>	+136
ボトリング	4,774	<b>5,150</b>	+376	151	<b>609</b>	+457
金属加工	7,478	<b>7,304</b>	△173	441	<b>461</b>	+19
エンジニアリング サービス	4,203	<b>4,346</b>	+142	651	<b>818</b>	+167
報告事業部門計	36,615	<b>37,223</b>	+607	2,798	<b>3,579</b>	+780
連結合計	36,008	<b>36,577</b>	+568	2,640	<b>3,352</b>	+711

# 決算概要 <利益の増減要因 ①>

## 【化学品セグメント ①】

### 化薬分野

産業用爆薬	↘ 石灰碎石需要の減少に加えて原材料価格の高騰などにより、減収減益
自動車用緊急保安炎筒	↗ 自動車生産の増加に伴い需要が増え、増収増益
高速道路用信号焰管	↗ 人流抑制緩和にともない交通量が回復し需要が増え、増収増益
煙火関連	↗ 販売品目の構成見直しに加え、花火大会の増加などにより、増収増益
宇宙産業	- 固体推進薬開発を顧客と進行中。初号機打上げ失敗も、二号機以降の検討を継続。

### 受託評価分野

↗ 危険性評価試験・電池試験ともに電池開発活況継続により、増収増益

# 決算概要 <利益の増減要因 ②>

## 【化学品セグメント ②】

### 化成品分野

塩素酸ナトリウム	↗ 紙パルプ漂白用途の需要に対して安定した供給を進め、増収増益
過塩素酸アンモニウム	↗ 防衛用途の需要が増えたことにより、増収増益
電極	↗ 顧客在庫調整およびスポット受注減により減収、高付加価値製品の販売増により増益
過塩素酸	↘ 国内外の需要増加により増収するも、原材料価格の高騰などにより、減益

### 電子材料分野

- ↘ アジア圏をはじめとする海外需要の低迷継続、
- ↘ 国内は顧客在庫調整で減収減益
- 性能向上品や環境規制対応品などの製品開発・営業活動に注力

### セラミック材料分野

- ↘ 国内砥石・研磨布紙メーカーの需要低迷により、減収減益

### シリコンウェーハ分野

- ↘ 顧客の在庫過多や生産調整が続いており、減収減益
- ↘ 高付加価値製品の用途拡大、小口径ウェーハ市場の新規開拓とシェア拡大、既存製品群の生産性向上といった活動に注力



# 決算概要 <利益の増減要因 ③>

## 【ボトリングセグメント】

### ペットボトル・缶飲料

- ↗ 個人消費とインバウンド需要の高まりにより順調に推移。  
加えて、適正価格の維持およびコスト改善の取り組みにより、増収増益

## 【金属加工セグメント】

### 耐熱炉内用金物

- ↗ 安定的成長と採算性を目的とした販売品目の構成見直しにより減収するも、  
適正価格の維持や強みある商品へのリソース集中の推進により、増益

### 各種金属スプリング・プレス品

- ↘ 第3四半期まで需要全体が好調であり増収。  
第4四半期は主要取引先(建設機械・自動車)の需要落ち込みにより減益

## 【エンジニアリングサービスセグメント】

### 建築・設備工事

- ↗ 工事数の増加に伴い、増収増益

### 塗料販売・塗装工事

- ↗ 前期計上の大型スポット案件の反動により減収するも、  
市場環境全体は好調であり増益

### 構造設計

- ↗ 収益性の高い案件の増加により、増収増益

# 2 0 2 5 年 3 月 期 通 期 見 通 し

---

# 通期見通し < 連結業績予想 >

		2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異	増減率
(単位：百万円)					
売上高	第2四半期	17,672	18,500	+827	+4.7%
	通期	<b>36,577</b>	<b>38,000</b>	<b>+1,422</b>	<b>+3.9%</b>
営業利益	第2四半期	1,384	1,600	+215	+15.6%
	通期	<b>3,352</b>	<b>3,800</b>	<b>+447</b>	<b>+13.4%</b>
経常利益	第2四半期	1,564	1,700	+135	+8.7%
	通期	<b>3,600</b>	<b>4,000</b>	<b>+399</b>	<b>+11.1%</b>
純利益	第2四半期	1,173	1,200	+26	+2.3%
	通期	<b>2,598</b>	<b>2,800</b>	<b>+201</b>	<b>+7.7%</b>
期末配当	1株当たり	33円	36円	+3	+9.1%

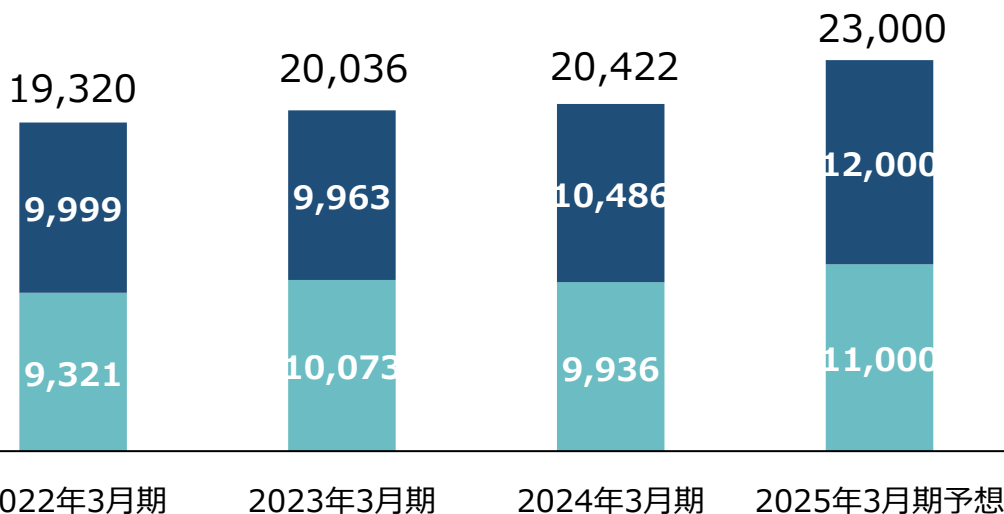
# 通期見通し

## < 連結・事業部門別 >

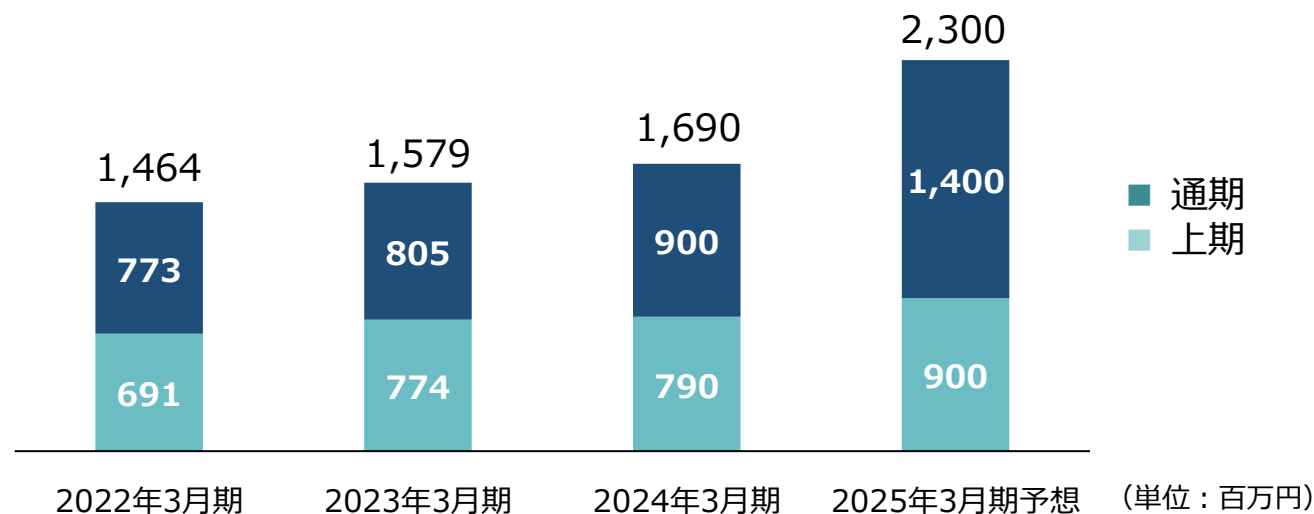
(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異
化学品	20,422	<b>23,000</b>	+2,577	1,690	<b>2,300</b>	+609
ボトリング	5,150	<b>4,700</b>	△450	609	<b>600</b>	△9
金属加工	7,304	<b>7,200</b>	△104	461	<b>500</b>	+38
エンジニアリング サービス	4,346	<b>5,500</b>	+1,153	818	<b>800</b>	△18
報告事業部門計	37,223	<b>40,400</b>	+3,176	3,579	<b>4,200</b>	+620
連結合計	36,577	<b>38,000</b>	+1,422	3,352	<b>3,800</b>	+447

# 通期見通し < 化学品セグメント >

【売上高】※注



【営業利益】※注



化薬分野（自動車用緊急保安炎筒等）や化成品分野（基礎化学品類）、  
 受託評価分野（危険性評価、電池試験）は前期同様、堅調に推移する見通し。

加えて、半導体サイクルの持ち直しにあわせ、

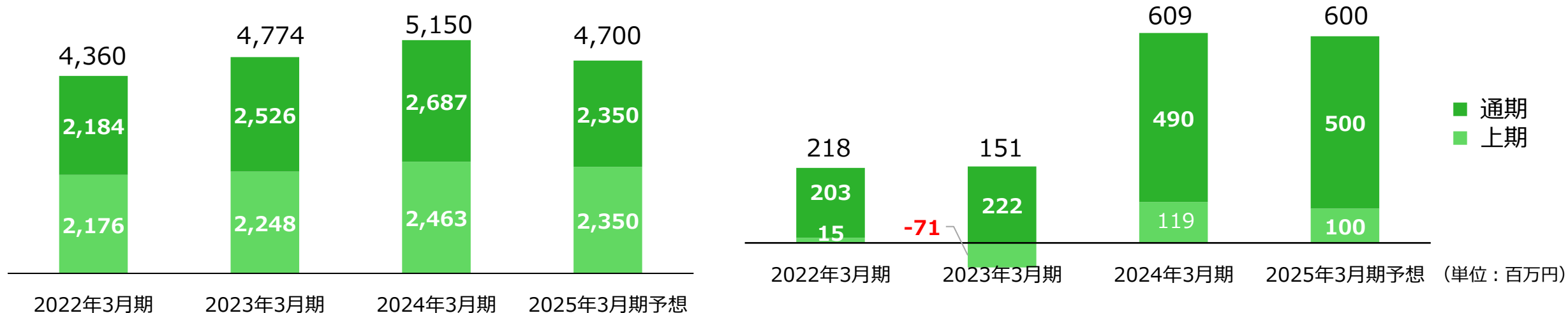
電子材料分野は上期中、シリコンウェーハ分野は下期中に需要が回復する予想。

※注 2022年3月期および2023年3月期業績は旧報告セグメントの実績値に、シリコンウェーハ分野の実績値を単純に加減算した参考値です

# 通期見通し <ボトリングセグメント>

【売上高】

【営業利益】



例年同様、上期に定期修繕工事の費用が発生。

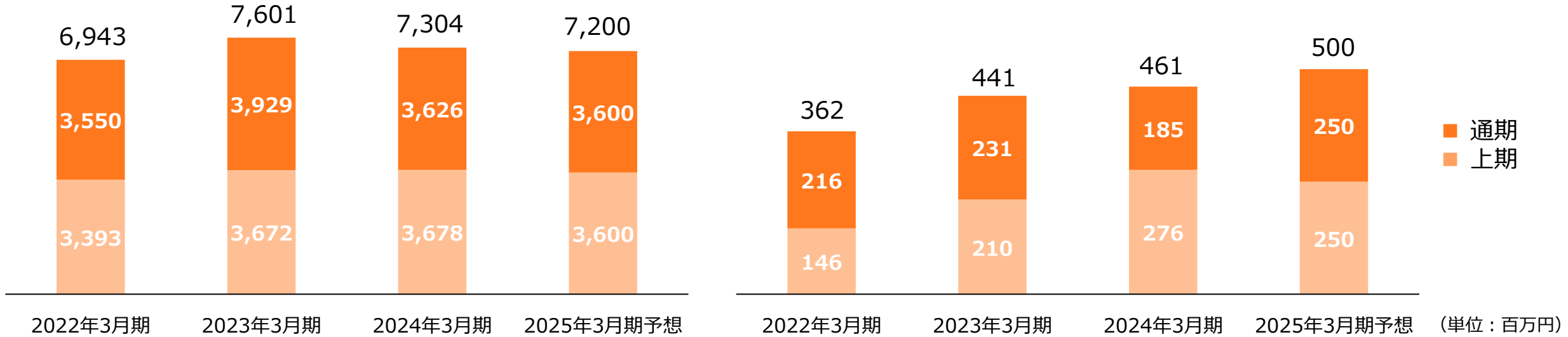
インバウンド増加による飲料需要は継続すると予想し、

前期と同様の売上高、営業利益となる見通し。

# 通期見通し < 金属加工セグメント >

【売上高】※注

【営業利益】※注



耐熱炉内用金物関連は前期同様に堅調に推移する予想。

各種金属スプリングおよびプレス品は、建設機械や自動車向けの需要落ち込みの影響を受ける見通し。

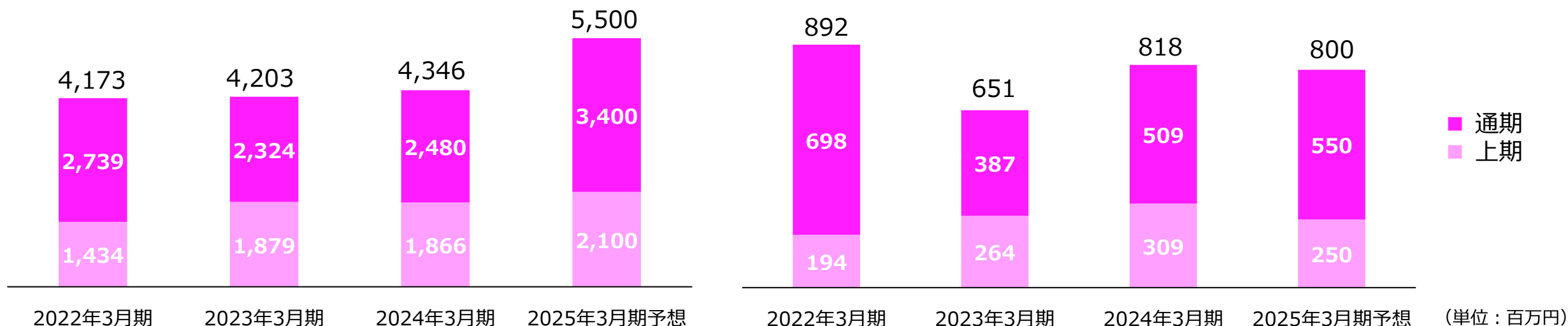
適正価格に向けた値上活動の徹底や、強みある商品へのリソース集中に挑戦し、増益を目指す。

※注 2022年3月期および2023年3月期業績は旧報告セグメントの実績値に、シリコンウエーハ分野の実績値を単純に加減算した参考値です

# 通期見通し <エンジニアリングサービスセグメント>

【売上高】

【営業利益】



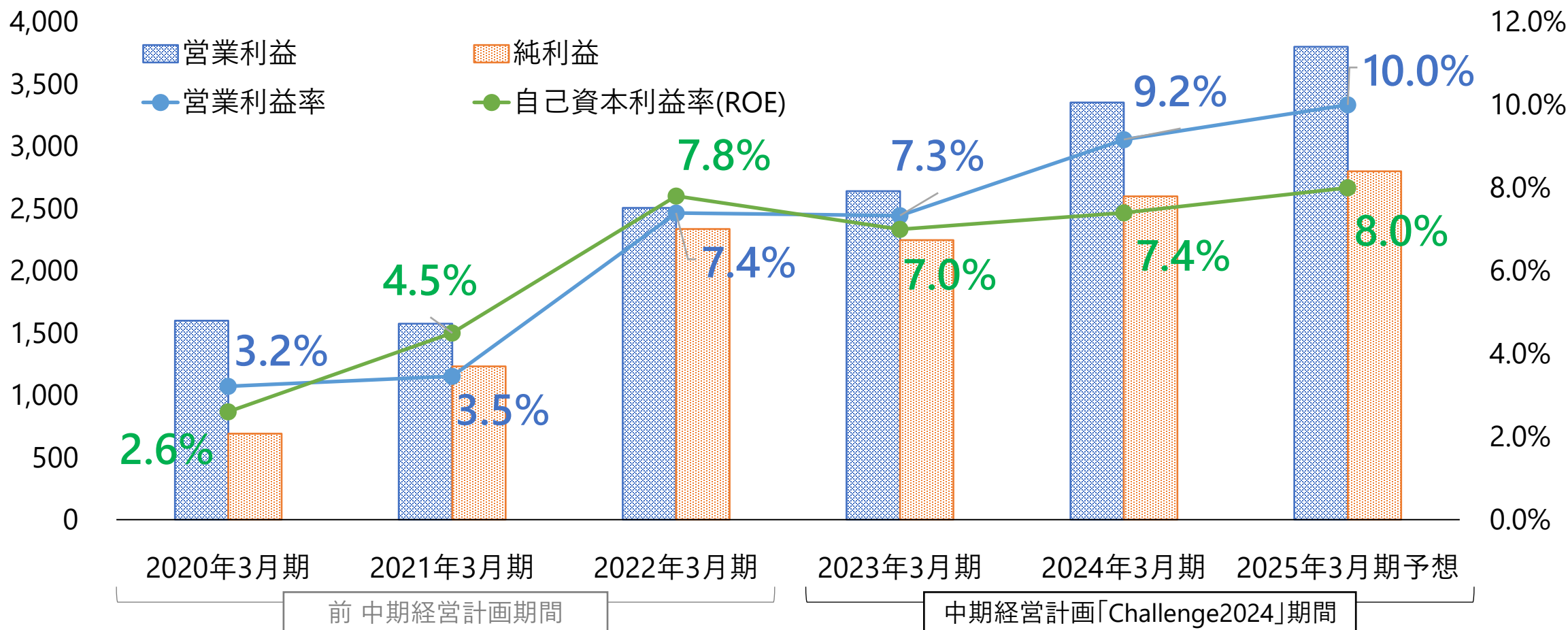
建築・設備工事では競争環境の激化傾向が続くものの、

自社内工事・施工だけでなく、公共工事等の建設案件の獲得に向け営業活動を実施。

塗料販売・塗装工事や構造設計は市場環境良好。前期同様、堅調に推移する見通し。



# 資本収益性の推移と見通し



ROEの目標達成に向けて...

- 連結営業利益率 10%の達成
- 投資案件への適切な資源・資本配分
- 各事業セグメントにおける営業キャッシュフロー最大化の推進

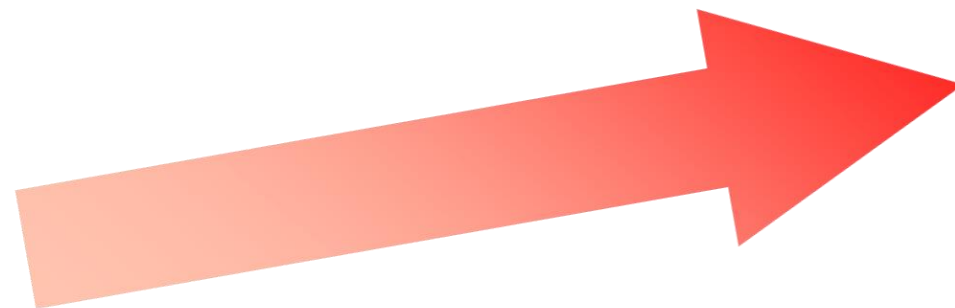
# 中期経営計画 Challenge 2024

---

## グローバルアッププラン 2024

---

# 中期経営計画 Challenge 2024



グロースアッププラン 2024

ローリングプラン 2023

2022/6

2023/5

2024/5

# 経営環境の振り返り：環境変化

## ◆ 2023年～2024年における環境変化

社会・経済環境

- ✓ ウクライナ侵攻長期化、中東紛争過激化による、世界情勢の不安定化
- ✓ 物流業界 2024年問題による運送コストの変動
- ✓ 電子材料や半導体材料需要の低迷が継続

上場企業に対する要請

- ✓ PBR向上を目的とした、資本収益性や市場評価の改善要請  
→ 2023年3月以降、更なる進展が期待されている

## ◆ 2023年～2024年における当社の状況

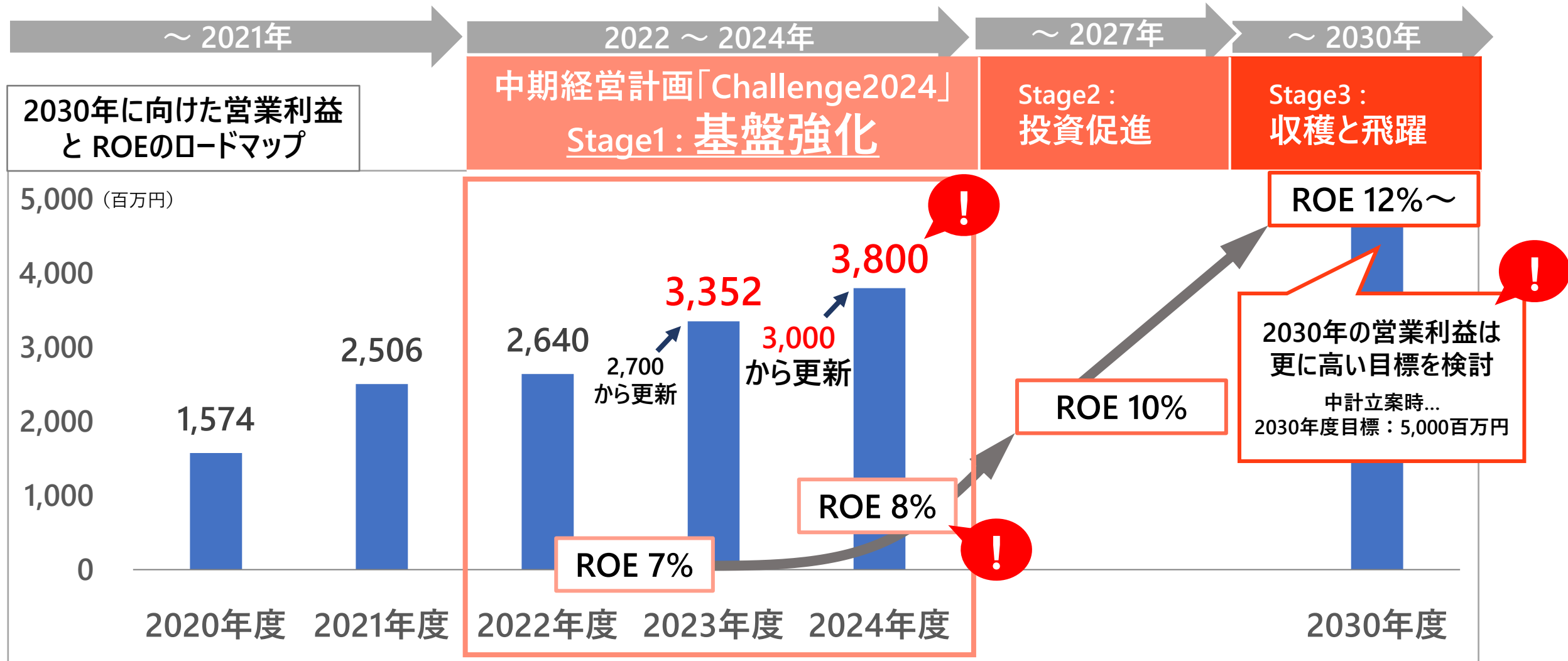
- 過去最高益見込。中計「Challenge2024」目標営業利益を前倒して達成
- 中計「ローリングプラン2023」にて掲げた資本収益性の改善は道半ば



▶ 更なる成長に向け、「グローアッププラン2024」を策定

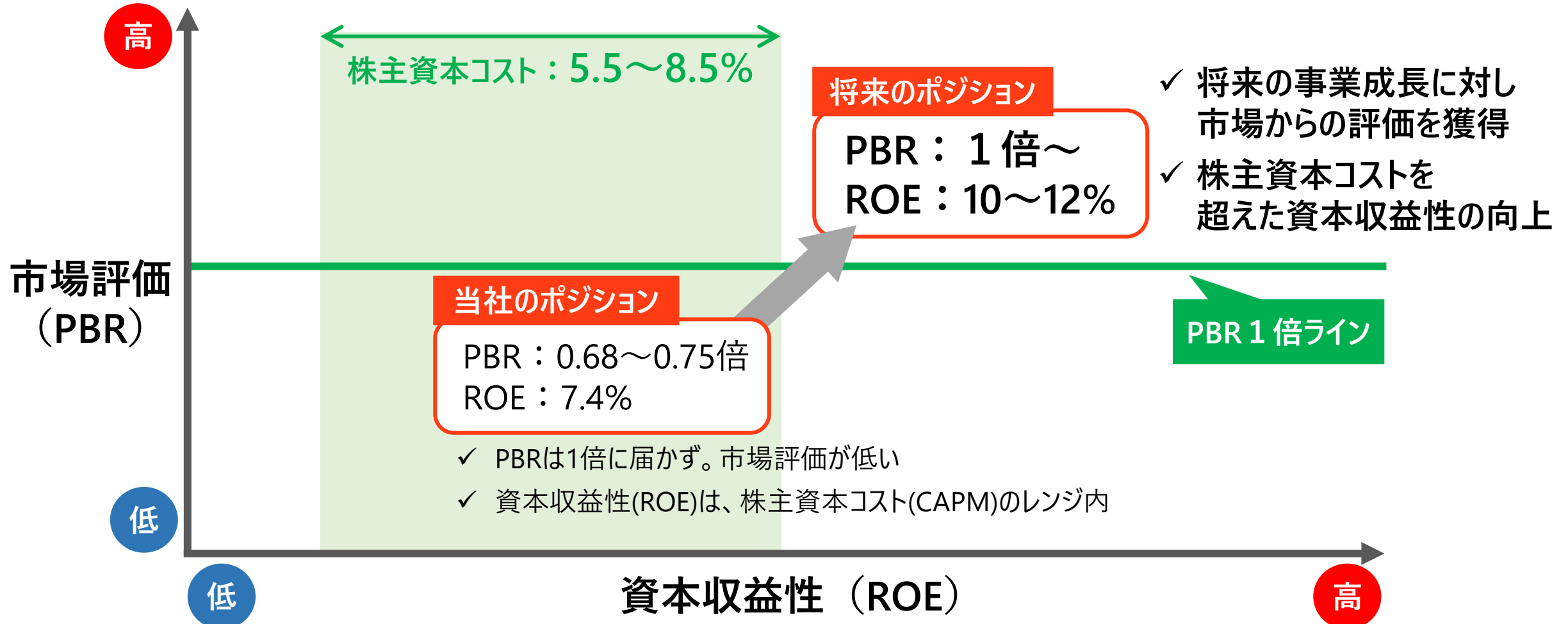
# 2030年に向けたロードマップ

## ◆ ロードマップにおける営業利益目標値を更新



# 資本収益性と市場評価に関する分析

- ◆ 資本収益性と市場評価に関するマトリクスにおいて、当社のポジションを確認
- ◆ 中期経営計画「Challenge2024」、「ローリングプラン2023」に加える改善策を検討

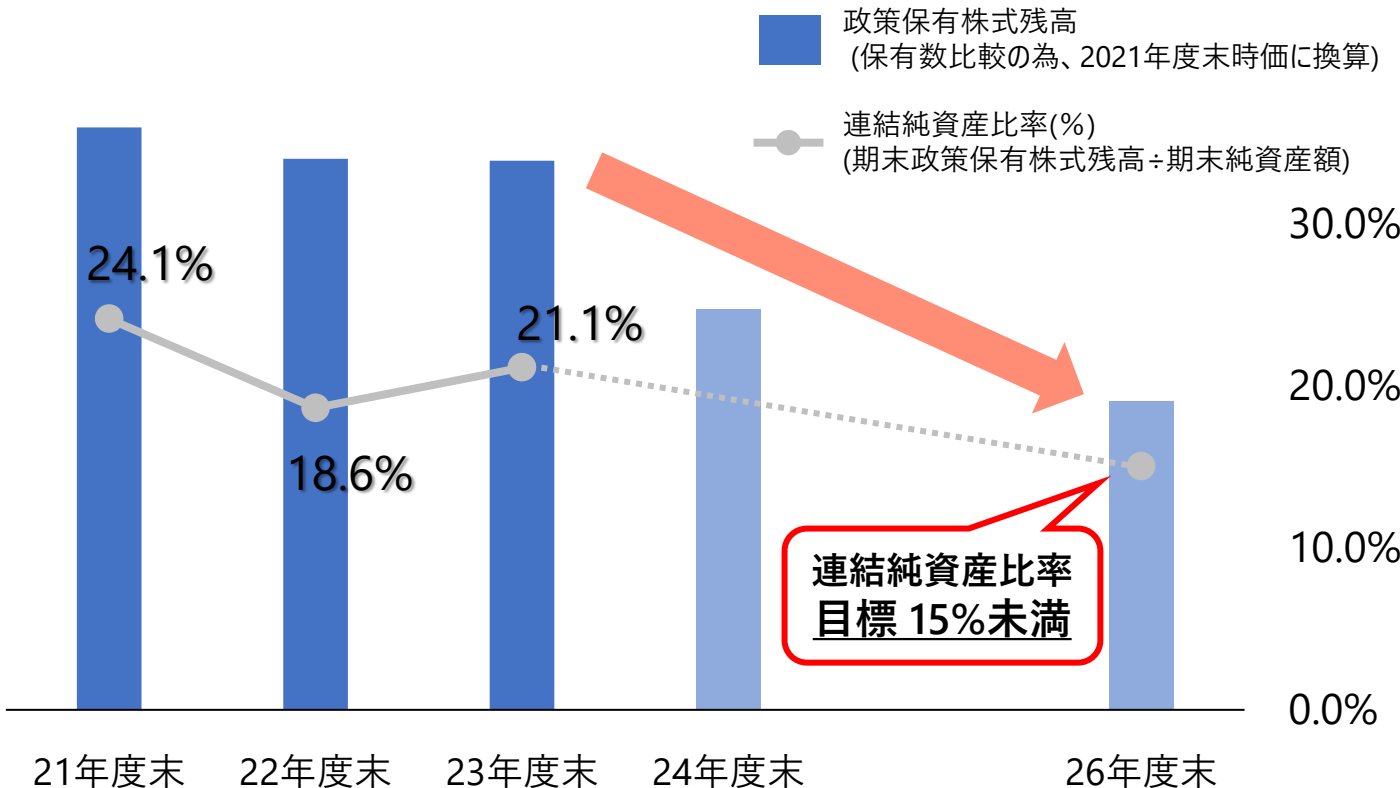


# 政策保有株式の縮減方針



(中計「Challenge2024 ロールングプラン2023」より抜粋)

- ◆ グループの更なる成長をファイナンス面から実現する、バランスシートを意識した経営
- ◆ 政策保有株の縮減を進めていき、資産のスリム化を推進する



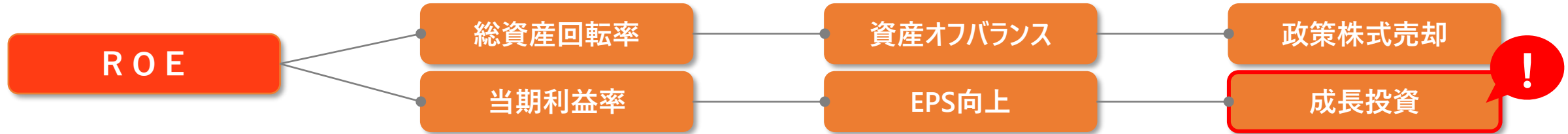
## 外部環境

- ✓ 直近の株高を背景に、連結純資産の比率が上昇傾向

## 縮減方針

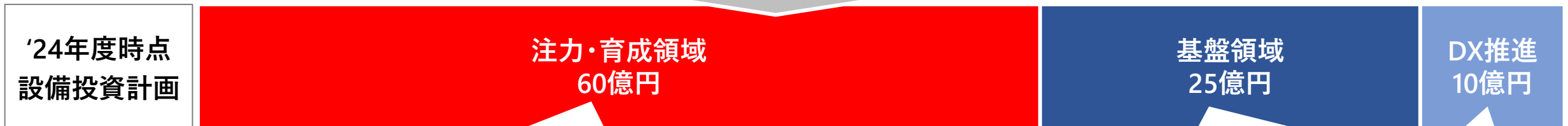
- ✓ 資本コストなどの指標を総合的かつ中長期的に勘案し、政策保有株の縮減を継続的に進める
- ✓ 26年度末 連結純資産比率 15%未満を目標に縮減を推進

# 設備投資計画・成長投資の進捗



(中計「Challenge2024 ロールングプラン2023」より抜粋)

- ◆ 収益性の高い成長投資案件を優先し、スピード感をもって推進
- ◆ 基盤領域（低ボラティリティであり安定収益が見込まれる）事業への投資も着実に取り組む



✓ 注力・育成領域の投資案件は高い収益性を期待

- 過塩素酸アンモニウム事業：25億円
- 受託電池試験事業：20億円
- シリコンウェーハ事業：10億円
- 研究開発：5億円

✓ 基盤領域の投資案件は収益性が十分であることに加え、

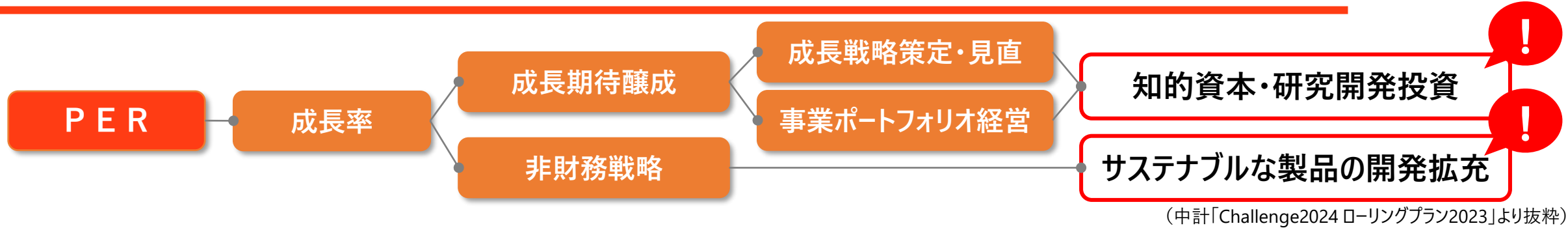
- 爆薬・保安炎筒事業：10億円
- 省エネ・再生可能エネルギー関連：5億円
- その他 老朽化更新・効率向上投資：10億円

基幹システム最新化等

安定収益や省エネ効果等のESG視点も重視



# 研究開発の推進による成長期待醸成



- ◆ 研究開発における「2030年のあるべき姿」  
 化学品・半導体分野に特化し、新製品を生み出し、新たな事業を確立する

## 中期経営計画最終年度の取り組み

- 1. 電極事業の新たな挑戦**  
 新規蓄電デバイス材料、水素発生電極(NEDO共同研究)、CO<sub>2</sub>回収
- 2. 電子材料事業の新たな挑戦**  
 イオン性導電材、高分子導電材
- 3. 光・半導体事業の研究開発拡充**  
 高付加価値ウェーハ材料の開発、光学材料の研究

## 実現する未来の姿

ライフサイエンス

カーボンニュートラル実現に向け、  
クリーンエネルギーの更なる普及

エレクトロニクス

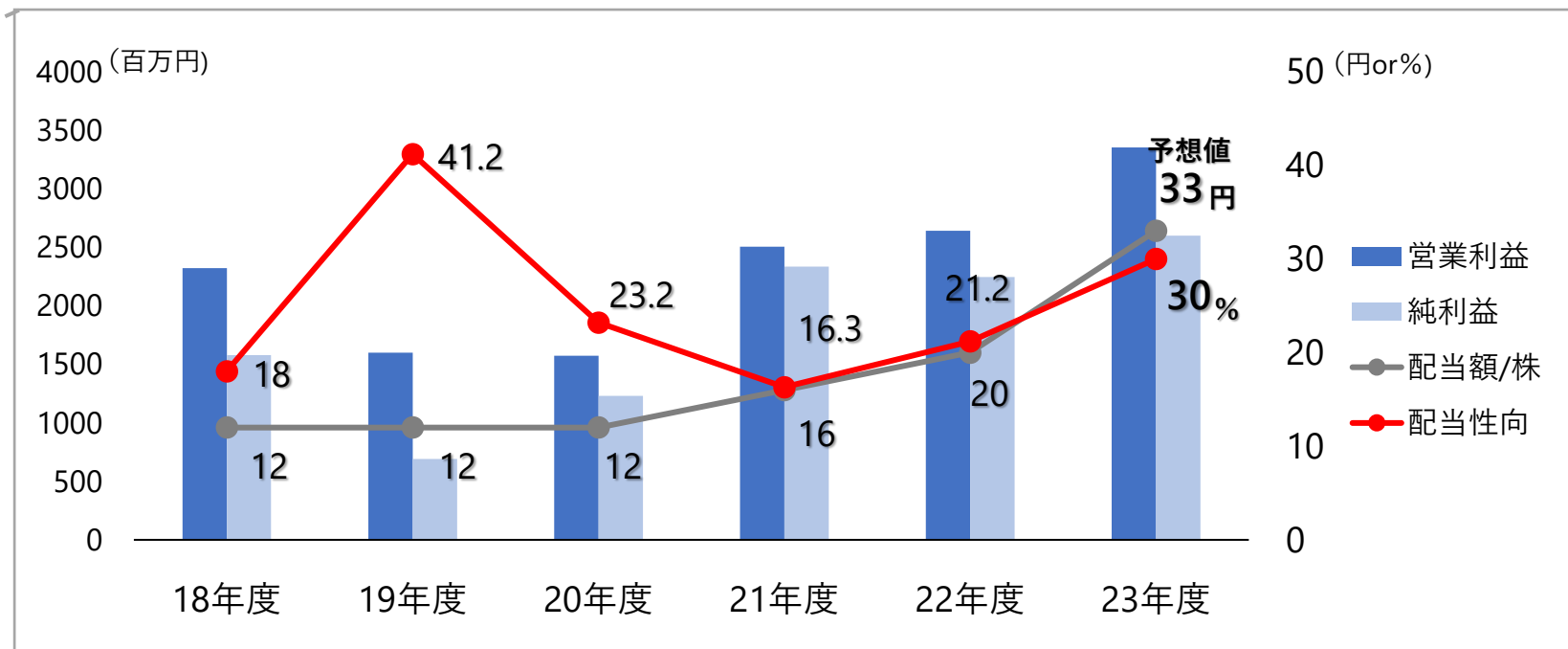
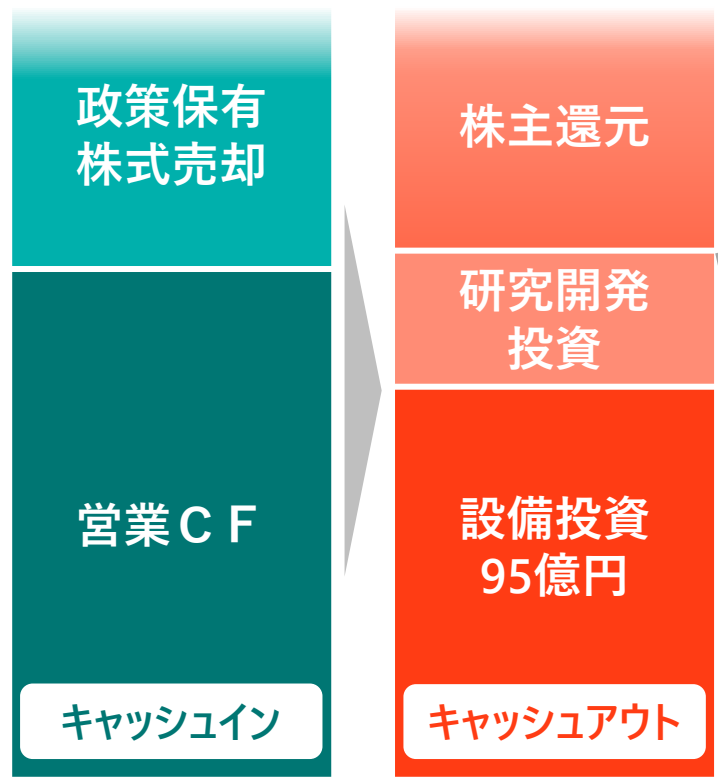
スマートフォンなど電子デバイスの  
更なる高性能化・超越

# 業績連動型の安定配当



(中計「Challenge2024 ローリングプラン2023」より抜粋)

- ◆ 適切に財務レバレッジをコントロールし、自己資本水準を最適化、健全性を維持
- ◆ 営業CF・資産売却 等の原資を、投資と株主還元戦略的に配分し、収益性と成長期待の向上を目指す

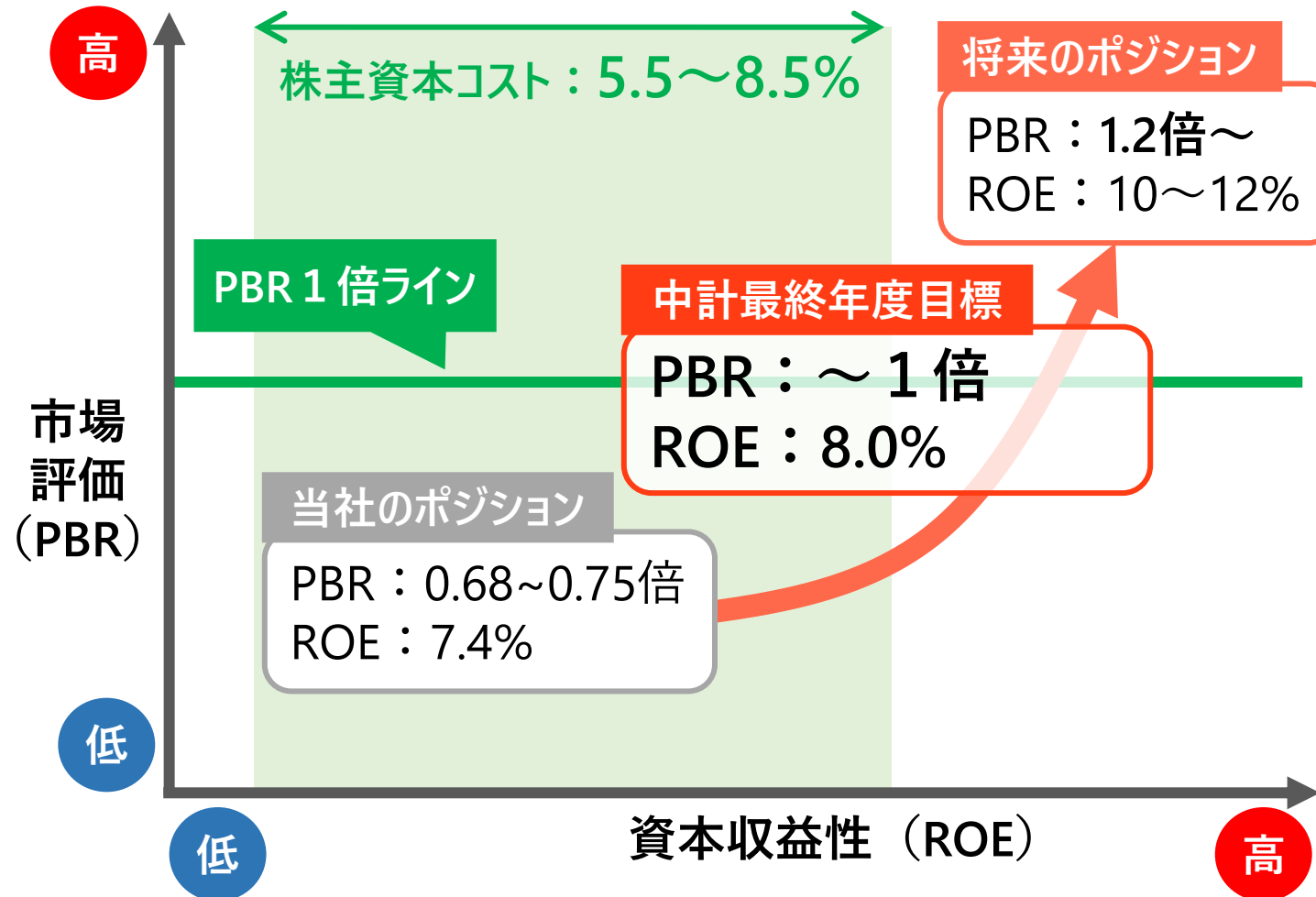


✓ **成長投資に取り組むとともに、総還元性向※を30%として利益還元をめぐる**

※総還元性向 = (配当支払総額 + 自社株買い総額) / 当期純利益

# 中期経営計画「Challenge2024」最終年度に向けて

- ◆ 2024年度は.....中期経営計画「Challenge2024」を骨子に、「ローリングプラン2023」の取り組みを継続  
そして、「グロアアッププラン2024」で更なる成長を目指す



## 中計最終年度の具体策

1. 中期経営計画「Challenge2024」の達成
2. 経営方針 営業利益率 3%~up の達成
3. 財務戦略の推進による  
自己資本の最適化・資本収益性の改善
4. 設備投資と研究開発の推進による  
成長期待の醸成
5. 適切な株主還元の実行

**信 頼 と 限 り な き 挑 戦**



**無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に**

Q A セ ッ シ ョ ン



## QAセッション 1 問目

- Q.
- 過塩素酸アンモニウムの防衛向け需要は高まっていますか。
  - 過塩素酸アンモニウムの増産はいつからはじまりますか。

- A.
- 防衛用途の需要は徐々に増加傾向にあるが、取引先との関係もあり、具体的な数値や時期などは申し上げられません。
  - 増産に向け、次世代ロケットであるH3ロケットの躍進含め宇宙開発用途にも期待しています。防衛用途と宇宙開発用途の双方に対応すべく、増産投資を進めています。
  - 増産投資はステップ1から3までの3段階に分けて進行中です。ステップ1、ステップ2でも生産能力は順次強化されていきますが、大幅な増産スタートは、全設備増強完了の2026年度末の予定です。その時々々の需要予測にあわせ、投資を進めています。

## QAセッション 2 問目

---

- Q.
- 政策保有株式の縮減については、具体的な計画はありますか。
  - 政策保有株式縮減による売却予定額はいくらぐらいを想定していますか。

- A.
- 縮減計画は、社内で現状把握し、具体的なスケジュールや売却予定額等の検討を進めています。
  - お取引先さまとの関係、株価への影響があるため、現時点で内容に関するご説明は控えさせていただきます。
  - 政策保有株は、グロースアッププランの説明でもお示したとおり、純資産比率が20%を超えていますので、2026年度末に15%未満の達成を目指しています。

## QAセッション 3 問目

---

- Q. • 成長戦略や中計のローリングプランの開示など、最近取り組みを積極的に開示するようになっているように見受けられますが、その経緯はなにかありますか。
- A. • これまでの活動を振り返り、経営改革を進めるにあたり情報開示の大切さを再認識しています。
- 現中期経営計画「Challenge2024」から、毎年ローリング形式で計画の振り返り、見直しを実施して開示しています。
  - 注力領域、成長領域の設備投資について、ステークホルダーの皆さまに成長期待を持っていただきたいと思っています。
  - 今後も各種取り組みの積極的な情報開示を推進していきます。



## QAセッション 4 問目

- Q.
- 配当の考え方を「総還元性向」に変更した理由を教えてください。
  - 総還元性向を目標値にするということは、自社株買いを実施する予定があるのでしょうか。
  - PBRを1倍にする方法としては自社株買いをするのか。

A. • (総還元性向に変更した理由について)

中期経営計画「Challenge2024」では、「配当性向20～30%」と配当のみを株主還元の対象としていました。総還元性向は、配当だけでなく自己株式の取得も含めて、株主の皆さまへ適切な還元を検討していくものです。より柔軟で適切な利益還元を検討できるよう、「総還元性向」という考え方にあらためたものです。

- (自社株買いをするかどうかについて)

自己株式の取得は、資本勘定への影響等、財務面のインパクトを考慮する必要があります。

今後、財務面の検討を深めてまいります。現時点では自己株式取得の決定等の事実はありません。

- (PBR改善のための自社株買いか)

企業価値向上の観点から、財務上最適な資本・負債構成を検討してまいります。

自己株式取得の結果として、企業価値（株価）が向上（上昇）し、PBRが改善されることはあると考えています。

## QAセッション 5 問目

- Q.
- 前期の計画で営業利益率を 3 % 上げるという取り組みがあったが、進捗はありますか。
  - 前期実績や今期予想では、売上高よりも営業利益の増加が大きく見える。要因について教えてほしい。
- A.
- 営業利益率向上は、グループ全体で取り組んでいる「適正価格の維持」と「コスト構造改革」の 2 つの取り組みによる影響が大きいと考えます。
  - 「適正価格維持」については、お取引先様からご理解をいただいたおかげだと考えています。運送コストや原材料価格の高騰は続くと予想され、引き続き取り組んでいきます。
  - 「コスト構造改革」は、生産コストひとつひとつを見直すこと、採算性を重視した取扱品目見直しも進めています。
  - お取引先様のご理解、従業員の尽力のおかげで、営業利益率は中期経営計画スタート時点から約 2 % 向上し、目標達成まであと 1 % となりました。

- Q. • 業績説明の冒頭で、投資有価証券の「売却損」で1億4千万円と仰っていましたが、売却益ではないでしょうか。教えてください。
- A. • ご指摘の通りで間違いです。正しくは「売却益」です。

Q. • 25年3月期 下期の化学品セグメントの営業利益が14億円と、上期計画の9億円より大きく増益になりますが、主要製品別にどのような貢献がありますでしょうか。

- A. • 今期下期は、半導体業界の復調を要因として、特に「電子材料分野」、  
「シリコンウェーハ分野」の増収増益による貢献を大きく見込んでいます。
- そのほかの化学品セグメントの製品群は、前期同様に堅調に推移していくと考えています。

- Q. • ボトリング事業について、24年3月期下期から利益率が前年比大きく改善していますが、値上げ効果が最大で、次いで生産改善コスト削減など、自助努力による収益性向上でしょうか？また、25年3月期が最も高い利益が継続する計画になっていますが、さらなる利益率の向上は期待できますか。
- A. • ご認識の通り、適正価格への反映、価格維持による影響が大きいと考えています。特にエネルギーコストの反映が大きくなっています。
- 生産性改善は、新規設備等はないものの、生産工程や設備メンテナンス工程など、利益意識、コスト意識を高めて取り組んだ結果であると考えています。

Q. • 事業が多岐にわたっており、事業間のシナジーが小さいように感じるものもあります。各事業の位置づけと今後の事業ポートフォリオの方針についてお聞かせください。

A. • 事業間のシナジーは、重要な経営課題として認識しています。

- 現在、多岐にわたる事業群により、市場変動のリスクを最小限に抑えることができていると、前期のような半導体市場が低迷した際でも、最高益を出すことができていると考えています。
- 基盤領域のセグメント、子会社も安定的な収益のために重要な位置づけと考えています。その収益を、注力・育成領域に回していき、成長を促進させていきたいと考えており、ROICを指標とした資本収益性に基づく経営を進めるべく検討しています。

- Q.
- 設備投資計画の見方について、中計立案の設備投資計画が記載されていますが、24年度までの3年間の設備投資計画が90億円から95億円に増加し、内訳が大きく変化したという理解でよろしいでしょうか。
  - また、基盤領域投資が減っている理由は何か。次の中計も同様の設備投資比率になりますか。

- A.
- ご認識の通りです。中計立案時から設備投資計画の内訳、合計額が変化しています。
  - 基盤領域投資は老朽化更新等、粛々と進めておりますが、収益性や環境負荷軽減などを重視し、投資可否の選定をしています。
  - 今後も注力領域、高い収益性が見込まれる投資を優先し、過塩素酸アンモニウムや電池評価試験用の設備に注力する予定です。設備投資計画の変更状況については、随時ステークホルダーの皆様へお伝えさせていただきたいと考えています。

カーリットホールディングス株式会社  
経営企画部 広報・サステナビリティ推進室  
メール： [pr@carlit.co.jp](mailto:pr@carlit.co.jp)

本日はご参加いただき誠にありがとうございました



**信 頼 と 限 り な き 挑 戦**



**無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に**